



田代 愛子さん

Tashiro Aiko

〔南三箇区〕

たしる・あいこ / 舞台女優。
9月25日(土) 県立劇場で、
熊本県芸術文化祭オープニン
グステージとして上演される
演劇『上通物語』で主演。

役者と観客が一緒の空気感を 共有できる感動が演劇の魅力

「演劇はテレビドラマと違って、目の前で演じる人がいる空気感がある。舞台で、役者が発する空気の振動で伝わる喜びや悲しみ。その空気感を、役者と観客が演劇を通して一体となつて共有できる。この醍醐味は、

劇場じゃないと味わえない」と語るのは、舞台女優の田代愛子さん。「観客と一緒に空気を共有できたとき、すごく言いようのない楽しさがある」と話す。演じることの楽しさを知ったのは、小学生のときの童話発表

会。声で演じることから始まった演劇への興味はふくらみ、高校生のとき演劇部の扉を開く。演劇は「役者も裏方も、どちらも好きで楽しい」と感じる田代さん。「始めたころは別の人間を演じることが、そんなに難しいことだとは思っていなかった。台本に出てこない、その人物の背景までしっかり考えて演技を作り込むことの必要性に気付いたときに、大きな衝撃を受

けた」と振り返る。「何が正解かは分からない。演出によっても違うし、少しできて、まだ分かっていなかったの繰り返しで難しい」と演技の奥深さと向き合う日々。「舞台上立ち幕が下りて鳥肌が立ったとき、観客に喝采を浴びたとき」の喜びが、演技の深みへと田代さんを駆り立てる。

今月開催される熊本県芸術文化祭には、「脇役でも裏方でもいいから、ぜひ参加したかった」と熱望した田代さんは、オーディションをくぐり抜けて『上通物語』の主役に抜てきされ、県立劇場の舞台に立つ。

「昭和の熊本を舞台として、郷土の復興に取り組む人々の温かみのある劇なので、ぜひ観てほしい」と話す田代さん。現在は「自分が演じたいと思っっている形と、周りから見られている印象が違うので、もっと人物を作り込みたい」と稽古に励む。

目指す先は、「舞台を作ることで、観客に何かを還元できるような役者になりたい」と語る田代さん。演じる空気感で、観客の心を振るわせる役者への道を、しっかりと見据えて歩む。